

# 献呈のことば

学長 谷 岡 一 郎

今年度、退職される先生方は、(五十音順で)池田潔先生、東山明子先生、松尾満先生、水田正史先生の四名です。昨年に続きコロナ禍の下、またネット授業や対面授業が交互に行なわれる中、先生方には授業に加え、重要な役割をいくつもお願いすることとなりました。試験の方法も様変わりしましたが、うまく対応していただいたようで、まずは感謝申し上げます。

池田潔先生は中小企業論や地域政策(特に近畿圏)がご専門ですが、企業や公立付置の研究所などにおられた経歴を活かした、幅広い知見を持たれていました。大学院の学生たちに常に適格な指導を与えられたのも、そうした知見が源流なのでしょう。学問には厳しい態度で臨みながらも、教室を離れると親しみやすい先生という評判です。

東山明子先生は、「心と健康」、「スポーツ心理」といったキーワードを出すと、まずこの人ありきとも言える、この分野のエキスパートです。最近禁煙に関する研究で、学会による優秀演題に複数回選出されていますが、興味は多岐にわたっているようですね。多くのトピックの著作(200本近い)があります。やさしい性格かつ物腰の低い方で、いつも気さくに話かけてくれたこと、ここでお礼申し上げます。

松尾満先生は、ナサニエル・ホーソン関連の公刊物が多数あり、その分野をまとめた単著もあるほどです。英語課目を中心にいくつかの授業を担当していました。この大学では私と同期で、同期会では毎年お世話になりました。同期で入ってもう30年以上も経つのですね。松尾先生の静かで落ち着いた性格は、皆から一目置かれる存在で、学生の面倒見に関しても定評のある先生でした。

水田正史先生は、現在のイランを中心とするオリエント地域の経済や商業に詳しく、語学にも秀でており、特にペルシア語はかなり古い文献も読みこなせるレベルだそうです。実は2019年にイランのイスファハンで国際会議が計画されており、私も参加申込みをしてビザを取得しておりましたが、いくつかの国からの申し入れにより会議はキャンセルされてしまいました。イランへ行く前に水田先生にイラン人の「ツボ」をお聞きしたかったのですが、残念なことでした。昨今のように国際情勢が渾沌とする世の中には、水田先生のような人が必要なのでしょう。

研究者は通常ずっと研究者を続けることが多いようです。この四人の先生方も、退職年というひとつの区切りを迎えられたことは確かですが、学究生活習慣が変わるわけではないようです。今後も新たな成果が完成し、それが届けられて目にする機会が何度もあることでしょう。どうか研究者どうしのおつき合いを、長く続けていただくと嬉しく思います。そして大阪商業大学はそんな風に、ずっと仲の良いムードのキャンパスでありたいと思っています。

とはいえ一応の区切りですので、ここに退職記念号を上梓し、そしてお祝い申し上げます。気力は失われずにせよ、年とともに体力が減少するのは自然の理。どうか健康に留意しつつ、世の中に新たな知見を発進し続けられますように。